

## 令和元年度 第2回 岡山県事業評価監視委員会 議事要旨

### ○開催概要

- 1 日 時 令和元年 10 月 7 日 (月) 9:00~12:00
- 2 場 所 メルパルク岡山「芙蓉」
- 3 出席者 岡山県事業評価監視委員会 委員 7名  
土木部 技術総括監  
農林水産部 参与 (農林技術)  
事務局 (技術管理課、農政企画課)  
道路建設課、河川課、防災砂防課、港湾課、住宅課  
耕地課、農村振興課、治山課、水産課

### ○議事概要

- 1 開 会
- 2 挨 拶 (土木部 技術総括監)
- 3 挨 拶 (佐藤委員長)
- 4 再 評 価

(事務局)	<p>再評価審議対象事業</p> <p>(第1回事業評価監視委員会で5件を抽出) (土木部関係5件)</p> <p>「事業採択後10年間が経過した時点で継続中の事業」</p> <p>③ 道路改良事業 県道<sup>きたぎしま</sup>北木島線</p> <p>④ 道路改良事業 県道<sup>にいみかつやま</sup>新見勝山線</p> <p>⑥ 地すべり対策事業 地すべり防止区域 <sup>こやがいち</sup>小谷ヶ市地区</p> <p>「再評価後5年間を経過した時点で継続中の事業」</p> <p>⑩ 海岸保全施設整備 (高潮対策) 事業 <sup>おかやまこう</sup>岡山港海岸 <sup>きたうらこうじま</sup>北浦幸島地区・<sup>こぐし</sup>小串地区・<sup>たちかわ</sup>立川地区</p> <p>「知事が特に必要があると認める事業」</p> <p>⑬ 河川改修事業 二級河川 <sup>まえかわ</sup>前川</p>
-------	--



<p>(道路建設課)</p>	<p>算すると走行時間短縮便益はかなり厳しい数値になると思う。</p> <p>こういった離島振興につながる事業については、説明にもあったように振興計画とセットで考えて評価しなければ、委員会での判断が難しくなる。</p> <p>笠岡市に県と同様の価値観で振興計画を実行していくという意思を持ってもらわないといけないと思うが、笠岡市との協力関係や意見交換はできているのか。</p> <p>笠岡市には離島振興係があり、担当者は北木島出張所に常駐してNPO法人などと協力しながら課題解消に努めている。そういった方と笠岡市の離島振興の取り組みや現状の観光振興などについて意見交換をして今回の資料をまとめている。</p>
<p>( 委 員 )</p>	<p>人口も交通量も減っているのに、走行時間短縮便益が50%も上がっているのはなぜか。</p> <p>また、交通量が1日400台程度であるが、走行時間短縮便益の算定にあたって、車1台あたり何分間で計算しているのか。</p>
<p>(道路建設課)</p>	<p>便益は国土交通省から示されている全国統一の原単位を使用している。今回の道路計画は、現道の幅員が狭く人家が連担して見通しが悪いため、1車線のバイパス整備を行うものである。この整備によって走行速度が上がるということで便益を計算しており、バイパス整備後の走行速度は時速25km程度である。</p> <p>また、前回評価時点では7年間で整備を終えて、その後便益が発生するようにしていたが、既にバイパス整備が完了した豊浦東地区について、平成27年度から便益が発生させたことにより走行時間短縮便益が増えたと考えている。</p>

<p>( 委 員 )</p>	<p>改良済みの地区で便益が発生するにしても5割増はすごい数字である。</p> <p>将来、交通量がもっと減っていくことになると、島民の方にとっては恐らくすれ違いの時に待つ時間が一番イライラするところだと思うが、それもほぼなくなる気がしており、本当にこんな価値を創造できるのかすごく疑問に思う。</p> <p>残りの工区だけでB/Cを計算すると1を切っている気もするがそのあたりはもういいのか。</p>
<p>(道路建設課)</p>	<p>今の評価手法を変えることは考えていない。引き続き、ストック効果が出るようにやっていくことは行政の使命だと思っている。</p> <p>また、離島振興に官民連携して非常に力を入れていることや、観光施策により域外人口の増加を図っていくことが、将来、島内の交通量にプラスになると考えている。当然、災害時の避難路としての役割や港としての機能強化など総合的に考えると、今後こういった道路は必要な限り整備していくべきであり、ストック効果を出すことは大切で続けていきたいと考えている。</p>
<p>( 委 員 )</p>	<p>道路改良事業において、地域振興という側面をどう評価するかが大きな課題であるが、離島は全て道路整備すればいいというものではなく、集約していくところはしていかなければならない。</p> <p>今の基準のままで判断するのはすごく厳しい。離島振興をしていくという観点で考えたときに、今の座標軸だけでは適切ではない気がするので、将来的に評価の座標軸を是非検討してほしいと思う。</p>



	<p>いる人も増えているわけでもないのに、これだけ変化する理由は何か。</p>
(道路建設課)	<p>再評価時点では令和元年を基準年とし、事前評価時点では平成21年を基準年として便益を算定している。また、便益を現在価値化しており、便益の発生が未来に行けば行くほどお金の価値は低くなるものであり、事前評価時点よりも今の方が便益の発生時期が近いため、お金の価値が高く出てしまい便益が増えているように見えている。</p>
( 委 員 )	<p>走行経費減少便益も同じように上がっていればいいが、こちらは下がっているなので、そのあたりが分かりにくい。</p>
( 委 員 )	<p>現在価値化する割引年数が短くなるということか。</p>
(道路建設課)	<p>そうである。</p>
( 委 員 )	<p>事業完了年度時点での便益は変わらないということか。</p>
(道路建設課)	<p>変わらない。</p>
( 委 員 )	<p>それでこれだけの変化があるということか。</p>
(道路建設課)	<p>そうである。</p>
( 委 員 )	<p>最終的に50年でやっていて、基準年が10年違ったらこれだけ差が出るということか。</p>
(道路建設課)	<p>そうである。</p>
( 委 員 )	<p>全体的に言えることであるが、今、建設工事は資材費も労務費も非常に高騰しているが、その部分は事業費に反映され</p>



(防災砂防課)	先ほどの道路事業と1点違うところがあり、国土交通省から示されている保全人家や避難所に対する原単位が事前評価時点より単価が上がったことが、便益が増えた1つの要因であると考えている。
( 委 員 )	単価が上がったことと基準年の違いによるものか。
(防災砂防課)	そうである。
( 港 湾 課 )	<p>⑩ 海岸保全施設整備（高潮対策）事業 <small>おかやまこう</small> 岡山港海岸  <small>きたうらこうじま</small> 北浦幸島地区・<small>こぐし</small> 小串地区・<small>たちかわ</small> 立川地区 事業説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業は、岡山港周辺の3地区である岡山港海岸北浦幸島地区、小串地区、立川地区の海岸保全施設について、護岸、堤防、胸壁などの整備を行うものであり、小串地区は平成20年度、立川地区については平成28年度に整備済みであり、現在、北浦幸島地区の整備を進めている。</li> <li>・北浦幸島地区については、水門湾に面し、千町川、幸田川、幸崎川等の河口部に位置しており、背後地の状況については、道路は県道鹿忍片岡神崎線、公共施設は幸島小学校や幸島幼稚園が立地し、護岸・堤防の背後には民家や農家がある。</li> <li>・平成16年16号台風では、高潮により護岸背後の建物や道路の周辺まで海水が浸水している。</li> <li>・事業の目的については、既設の護岸が築造から多年が経過し老朽化が著しいこと、高さが不足していることにより浸水被害が生じていることから、海岸保全施設を整備することにより、高潮等による浸水から国土の保全および、背後地の住民の生命・財産の防護を図ることとしている。</li> <li>・前評価時から計画完了年度については令和2年度から7年度に5年延期しており、用地交渉等の地元調整や家屋移転に時間を要したことによる。また事業費については、32</li> </ul>



	<p>億円から45億円に約13億円増えており、これは軟弱地盤の確認に伴う計画変更であり、海岸保全施設の整備にあたり構造物の安定性を満たすため地盤改良を行うことによるものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ B/C については、41.25であり、事業の必要性、重要性に変わりはなく、事業を継続する方針である。</li> </ul> <p>(質疑応答)</p> <p>( 委 員 )      3地区に分かれているので、別々に評価したほうが良いと思うが、一緒に評価する特別な理由があるのか。</p> <p>( 港 湾 課 )      過去に国から港ごとに海岸単位で評価する方針が示され、その際に一体的に評価しており、今回も踏襲してやっている状況である。</p> <p>                    現在は新しく事業を起こそうとした時には、事業の手法によって地区ごとに評価するようになっている。</p> <p>( 委 員 )      近年、異常気象で台風もかなり激しくなっているが、従来の基準で護岸の高さを決めていて大丈夫なのか。</p> <p>( 港 湾 課 )      現在は国の補助を受ける関係もあって、法律に位置付けられた築造基準に基づき従来どおりのやり方で設計している。</p> <p>                    これについて最近の動きであるが、非常に被害が大きい災害が多いことから、国の方で防護水準の見直しについての検討が始まっており、これが進んでいくと、今後はより防護水準の高い整備が行われることが考えられる。</p>
--	--

<p>( 河 川 課 )</p>	<p>⑬ 河川改修事業 二級河川 <sup>まえかわ</sup>前川 事業説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前川は、総社市に位置し、下流端から4,950mの現行区間に加え、新たに事業区間を上流へ450m延伸させ、全体延長5,400mの河川改修を進める。</li> <li>・事業箇所周辺には南北に国道429号、東西に国道180号、県道清音真金線が通っており、また、避難所に指定されている三須幼稚園やコミュニティハウス、病院も立地している。</li> <li>・過去の被害状況については、昭和51年9月、昭和60年6月の洪水等により、甚大な被害が発生した。</li> <li>・事業の目的は、河川の整備により、流下能力の向上や、河川環境の改善を図ることで、地域の暮らしの安全確保と、快適な生活環境を実現させることである。</li> <li>・追加した延伸区間の必要性については、事業開始以前は延伸区間の周辺はほとんど田畑であったが、宅地化が進み人口が増加しており、被害リスクが大きく増大しているとともに、近年の被災では、平成23年9月、平成24年6月豪雨で、延伸区間の周辺で繰り返し洪水被害が発生している状況である。また、繰り返し浸水被害が発生してからは、地元住民等から強い整備要望が寄せられている。</li> <li>・延伸区間の工事概要は、現在の河道を左岸側に広げるため、河道掘削と築堤を施工する計画である。</li> <li>・事業区間の延伸により計画完了年度は現計画から6年延長した令和7年度まで、全体事業費は4億円増の63億円となるが、B/Cは9.62であり、投資に対して十分な効果がある。</li> <li>・事業内容変更の必要性・妥当性は高いと認められるため、現計画を見直し、延伸区間を追加の上、事業を継続したいと考えている。</li> </ul>
------------------	--

	(質疑応答)
( 委 員 )	農地の貯水効果が宅地化によってなくなるから、洪水対策のために河川を拡げようとしているということか。
( 河 川 課 )	そうである。
( 委 員 )	今後、農振農用地ではなくなっている農地のところは、宅地転用が可能なので宅地化が進むと、また延長を延ばさなければならなくなる可能性はあるのか。
( 河 川 課 )	延伸区間より上流区間については、整備後も内水被害が少し発生する見込みであるが、現状では農地扱いのため、現延長での整備を考えている。

<p>( 委 員 )</p>	<p>離島振興につながる事業について考える時に、従来のB/Cだけではなく、もう1つ価値判断の軸を入れる必要があると思う。</p> <p>今のままのB/Cで評価するとかかなり無理して実行するという結論を出さざるを得ず、地域振興策として地元の抱えている大きな問題を解決することができないし、それを無理してやっているの説明がうまくいかない。</p> <p>県民の立場で考えた時に、公共事業で実施する必要性を説明できるような評価軸を検討する必要があると思う。</p> <p>また、道路のトンネルを掘ったりする時に毎回問題になるが、工事を始めてからヒ素や有害物質が出たなどで調査をやり直すことが過去にも何度もあったが、トンネルを掘ったりするとリスクは必ずあるので、過去の教訓からもっと効率よくできる方策について検討してほしい。</p> <p>この委員会でも何度も指摘されていると思うが、トンネルを掘る時に出てくる問題はほぼ想定されているので、事前に技術的にそれを調査するようなことを国の方でやっていないのか。</p>
<p>(道路建設課)</p>	<p>今日説明したヒ素は岩盤に偏在しており、事前の調査は点でしか分からない部分があるが、トンネルは面で掘っていくため、結果的にこういったことが生じた。</p> <p>それを科学技術的なもので全て把握するためには、そういった技術を待つようになる。</p>

## 5 事後評価

<p>(事務局)</p>	<p>事後評価対象事業について、事務局より概要説明し、その中から、次回事業評価監視委員会において審議する事業を抽出</p> <p>令和元年度 事後評価対象事業の概要説明 (土木部関係 17 件)</p> <p>道路改良事業</p> <p>①県道 <sup>き び つ まつ し ま</sup> 吉備津松島線</p> <p><sup>なかなつかわ</sup> 岡山市北区中撫川～<sup>じょうとう</sup> 倉敷市上東 地内</p> <p>工種：バイパス 概要：延長 840m 幅員 13.0(22.0)m 事業期間：変更なし (平成 17～27 年度) 事業費：変更なし (全体事業費 20.0 億円)</p> <p>②県道 <sup>よし い ゆ き</sup> 芳井油木線</p> <p><sup>よし い ち ょ う よ し い</sup> 井原市芳井町吉井～<sup>かわい</sup> 川相 地内</p> <p>工種：バイパス 概要：延長 1,110m 幅員 6.0(7.0～7.5)m 事業期間：1 年延長 (平成 22～28 年度) 事業費：0.2 億円増額 (全体事業費 24.2 億円)</p> <p>③県道 <sup>たか は し さ か も と</sup> 高梁坂本線</p> <p><sup>たか くら ち ょ う い い べ</sup> 高梁市高倉町飯部～<sup>う じ ち ょ う と お ぼ ら</sup> 宇治町遠原 地内</p> <p>工種：現道拡幅・バイパス 概要：延長 3,900m 幅員 4.0(5.0)m～6.0(8.0)m 事業期間：3 年延長 (平成 12～27 年度) 事業費：2 億円増額 (全体事業費 22.0 億円)</p>
--------------	--

④県道 <sup>かがみのくせ</sup>鏡野久世線

苫田郡鏡野町<sup>なかに</sup>中谷 地内

工種：現道拡幅・バイパス

概要：延長 2,000m 幅員 5.5(7.0)m

事業期間：2年延長（平成 19～27 年度）

事業費：0.5 億円増額（全体事業費 6.2 億円）

⑤国道 313号

真庭市<sup>なかま</sup>仲間 地内

工種：現道拡幅

概要：延長 600m 幅員 6.5(10.5)m

事業期間：1年延長（平成 22～28 年度）

事業費：1.9 億円増額（全体事業費 8.7 億円）

河川改修事業

⑥一級河川 <sup>たかはしがわ</sup>高梁川

新見市<sup>しょうでん</sup>正田～<sup>かなや</sup>金谷 地内

工種：築堤、掘削、護岸等

概要：延長 1,800m

事業期間：変更なし（平成元～26 年度）

事業費：0.6 億円減額（全体事業費 18.4 億円）

⑦一級河川 <sup>ひろとがわ</sup>広戸川（<sup>しょうぼく</sup>勝北）

津山市<sup>しものだ</sup>下野田～<sup>なかむら</sup>中村 地内

工種：築堤、掘削、護岸等

概要：延長 2,525m

事業期間：変更なし（昭和 55～平成 26 年度）

事業費：変更なし（全体事業費 17.2 億円）

急傾斜地崩壊対策事業

⑧急傾斜地崩壊危険区域 にしきこ 西迫地区

よしはま  
笠岡市吉浜 地内

工種：擁壁

概要：擁壁延長 621.7m

事業期間：3年延長（平成20～28年度）

事業費：0.3億円増額（全体事業費4.2億円）

⑨急傾斜地崩壊危険区域 たがしら 田頭地区

かきおか  
笠岡市笠岡 地内

工種：擁壁等

概要：擁壁延長 218.9m

事業期間：5年延長（平成19～28年度）

事業費：0.5億円増額（全体事業費2.9億円）

砂防事業

⑩砂防指定地 たにがわ やそう谷川

とみなかま  
苫田郡鏡野町富仲間 地内

工種：砂防堰堤

概要：砂防堰堤1基

事業期間：1年延長（平成21～28年度）

事業費：0.7億円増額（全体事業費3.9億円）

⑪砂防指定地 なるたきたにがわ 鳴滝谷川

しもごうち  
真庭市下河内 地内

工種：砂防堰堤

概要：砂防堰堤1基

事業期間：2年延長（平成21～28年度）

事業費：0.1 億円増額（全体事業費 1.2 億円）

⑫砂防指定地 いしがきたにかわ  
石垣谷川

まづか  
新見市馬塚 地内

工種：砂防堰堤

概要：砂防堰堤 2 基

事業期間：5 年延長（平成 20～29 年度）

事業費：1.5 億円増額（全体事業費 5.4 億円）

⑬砂防指定地 くつぎなかにがわ  
朽木中谷川

くつぎ  
美作市朽木 地内

工種：砂防堰堤

概要：砂防堰堤 1 基

事業期間：2 年短縮（平成 24～28 年度）

事業費：1.0 億円減額（全体事業費 1.4 億円）

⑭砂防指定地 のぼらがわ  
野原川

のほら  
美作市野原 地内

工種：砂防堰堤

概要：砂防堰堤 1 基

事業期間：2 年延長（平成 21～28 年度）

事業費：変更なし（全体事業費 2.5 億円）

⑮砂防指定地 たびらがわ いまいがわ  
田平川・今井川

おおさたじべ  
新見市大佐田治部 地内

工種：砂防堰堤

概要：砂防堰堤 2 基

事業期間：3 年短縮（平成 25～29 年度）



事業費：1.4 億円減額（全体事業費 2.3 億円）

⑩砂防指定地 こうげたかわ  
高下田川

高梁市有漢町有漢 うかん 地内

工種：砂防堰堤

概要：砂防堰堤 1 基

事業期間：1 年延長（平成 26～29 年度）

事業費：変更なし（全体事業費 1.6 億円）

県営住宅建替事業

⑪県営住宅原尾島団地 はらおしま

岡山市中区原尾島 はらおしま 地内

工種：住棟建替

概要：鉄筋コンクリート造 12 階

事業期間：変更なし（平成 25～28 年度）

事業費：0.6 億円減額（全体事業費 13.3 億円）

（農林水産部関係 17 件）

基幹水利施設ストックマネジメント事業

⑫勝英第三地区 しょうえいだいさん

津山市、美作市、勝央町、奈義町 地内

工種：管水路

概要：管水路延長 8.9km

事業期間：変更なし（平成 20～25 年度）

事業費：0.4 億円減額（全体事業費 6.5 億円）

畑地帯総合整備事業

⑬船穂西・上二万地区 ふなおにし かみにま

倉敷市船穂町船穂・真備町上二万 ふなお かみにま 地内

工種：管水路

概要：管水路延長 32.7km

事業期間：1年延長（平成19～25年度）

事業費：4.6億円増額（全体事業費8.8億円）

#### 経営体育成基盤整備事業

##### ⑩<sup>はっとり</sup>服部地区

倉敷市真備町<sup>はっとり</sup>服部 地内

工種：区画整理

概要：区画整理 25.3ha

事業期間：変更なし（平成22～26年度）

事業費：0.2億円増額（全体事業費4.0億円）

#### 県営かんがい排水事業

##### ⑪<sup>びなん</sup>備南地区

倉敷市<sup>まびちよう</sup>真備町～倉敷市<sup>たましま</sup>玉島 地内

工種：管水路等

概要：管水路延長 14.9 km

事業期間：変更なし（平成11～26年度）

事業費：0.3億円増額（全体事業費27.3億円）

#### 防災事業（ため池）

##### ⑫<sup>あおきいけ</sup>青木池地区

岡山市東区瀬戸町<sup>もりすえ</sup>森末 地内

工種：ため池

概要：ため池改修 1箇所

事業期間：変更なし（平成22～25年度）

事業費：0.3億円減額（全体事業費1.2億円）

くちのいけ  
②③口ノ池地区

たましまくろさき  
倉敷市玉島黒崎 地内

工種：ため池

概要：ため池改修1箇所

事業期間：変更なし（平成22～25年度）

事業費：0.3億円減額（全体事業費0.9億円）

みなみざこいけ  
②④南砂池地区

いちば  
倉敷市真備町市場 地内

工種：ため池

概要：ため池改修1箇所

事業期間：1年短縮（平成23～25年度）

事業費：0.4億円減額（全体事業費1.5億円）

こはらいけ  
②⑤小原池地区

かいだに  
岡山市北区栢谷 地内

工種：ため池

概要：ため池改修1箇所

事業期間：変更なし（平成23～26年度）

事業費：0.5億円減額（全体事業費1.2億円）

とどうちいけ  
②⑥土動地池地区

とよおかかみ  
吉備中央町豊岡上 地内

工種：ため池

概要：ため池改修1箇所

事業期間：変更なし（平成23～26年度）

事業費：0.8億円減額（全体事業費1.2億円）

とみしんいけ  
②⑦富新池地区

たましまとみ  
倉敷市玉島富 地内

工種：ため池

概要：ため池改修 1 箇所

事業期間：1 年短縮（平成 24～26 年度）

事業費：0.3 億円減額（全体事業費 1.4 億円）

湛水防除事業

なださき  
②⑧灘崎地区

かわほり  
岡山市南区川張 地内

工種：排水機

概要：排水機 2 台

事業期間：変更なし（平成 20～25 年度）

事業費：1.6 億円減額（全体事業費 5.8 億円）

ひがしたかさき  
②⑨東高崎地区

ひがしたかさき  
玉野市東高崎 地内

工種：排水機

概要：排水機 2 台

事業期間：変更なし（平成 20～25 年度）

事業費：0.5 億円減額（全体事業費 3.5 億円）

海岸保全施設整備事業

こじまろっく き  
③⑩児島六区 2 期地区

ふじた  
岡山市南区藤田 地内

工種：堤防、護岸等

概要：堤防延長 657m、護岸延長 761m 等

事業期間：3 年延長（平成 16～25 年度）

事業費：1.8 億円増額（全体事業費 10.8 億円）

#### 防災事業（湖岸堤防）

##### ⑳児島湾七区 4 期地区

岡山市南区西七区、北七区 地内

玉野市東七区、南七区 地内

工種：堤防斜面被覆

概要：延長 2,480m

事業期間：2 年短縮（平成 24～26 年度）

事業費：0.2 億円減額（全体事業費 5.2 億円）

#### 地すべり対策事業

##### ㉑金山地区

倉敷市真備町上二万 地内

工種：地すべり防止施設

概要：地すべり防止施設 6 箇所

事業期間：2 年延長（平成 19～25 年度）

事業費：0.6 億円増額（全体事業費 1.9 億円）

#### 水産環境整備事業

##### ㉒東備地区

備前市日生町鹿久居島 地先

工種：消波施設、アマモ場造成等

概要：アマモ場造成 8.3ha 等

事業期間：変更なし（平成 14～25 年度）

事業費：0.9 億円減額（全体事業費 24.1 億円）

(事務局)	<p>地域水産物供給基盤整備事業</p> <p>⑭ <sup>かしらじま</sup> 頭島漁港地区</p> <p>備前市日生町 <sup>かしらじま</sup> 頭島 地内</p> <p>工種：用地造成等</p> <p>概要：用地造成 8,145m<sup>2</sup> 等</p> <p>事業期間：1年短縮（平成6～26年度）</p> <p>事業費：3.5億円減額（全体事業費 16.5億円）</p> <p>事務局からの概要説明を踏まえ、令和元年度事後評価対象事業34件から、「事業種別ごと」に事業費、事業期間など変動の大きな事業を対象に、事後評価審議案件8件を抽出した。</p> <p>○土木部関係（4件）</p> <p>道路改良事業 ② 県道 <sup>よしい ゆ き</sup> 芳井油木線</p> <p>河川改修事業 ⑥ 一級河川 <sup>たかはしがわ</sup> 高梁川</p> <p>急傾斜地崩壊対策事業</p> <p>⑨ 急傾斜地崩壊危険区域 <sup>たがしら</sup> 田頭地区</p> <p>砂防事業 ⑮ 砂防指定地 <sup>た びらがわ いまいがわ</sup> 田平川・今井川</p> <p>○農林水産部関係（4件）</p> <p>畑地帯総合整備事業 ⑲ <sup>ふなおにし かみに ま</sup> 船穂西・上二万地区</p> <p>防災事業（ため池） ⑳ <sup>みなみざこいけ</sup> 南砂池地区</p> <p>海岸保全施設整備事業 ㉓ <sup>こじまろつく き</sup> 児島六区2期地区</p> <p>地域水産物供給基盤整備事業 ㉔ <sup>かしらじま</sup> 頭島漁港地区</p>
-------	--

## 6 その他

( 委 員 )	委員会のやり方や説明の仕方などをもっとこうしたらわかりやすい委員会になるのではないかといい意見があれば言っ てほしいと思う。
( 委 員 )	再評価の時に、割引率の影響で金額が大きく変わることが 多いが、再評価の時は当初から環境がどう変わったかが一番 見たいので、それが分かるように割引前と割引後の金額がそ れぞれどう変わったかが見えるようにした方がいいと思う。
( 委 員 )	インフレを考慮すると10年前の10億円と今の10億円 では全然価値が違っており、その点も考える必要がある気が する。
( 委 員 )	<p>北木島については、海社で2，3年ほど調査したことがあ り、非常に関心を持っている。</p> <p>今回、人口が減っているから事業の必要性は年々減ってい るのはよく分かるが、やはり県の離島の位置付けと県の取り 組みが重要になってきている。</p> <p>緊急用の船をなぜ購入するのかという意味をもう一度評価 する時に使ってほしい。道路がスムーズに通行できないと船 だけ高速にしても意味がない。</p> <p>離島については、いろんな取り組みを行って、なんとか今 後生かさなければならぬが、特に高速船のことがあるので 是非ともこの事業は継続してやらないといけない。</p> <p>北木島は県内の離島の中心であり、将来の計画と地域住民 や海社が振興対策に積極的に取り組んでいることをもう少し 強調された方がよかったと思う。知事への意見報告のときに そのあたりを強くアピールしてほしいと思う。</p>

<p>( 委 員 )</p>	<p>砂防ダムについて、ものすごく箇所が多いが、緊急性のあるものから順番に整備して、恐らく50年もつのかどうかも怪しい。自然災害を100%予防するのは不可能なことであるが、どこまで本当にする必要があるのか、そのあたりの考え方を教えてほしい。</p>
<p>(防災砂防課)</p>	<p>指摘のとおり危険箇所に対して、現在ハード整備をしているのが3割弱で、このまま全て整備していくと100年単位の時間がかかる。その間、放っておくわけにはいかないので、ソフト対策として砂防基礎調査に基づきあらかじめ危険な区域を住民に周知し、危険な時には逃げてもらう。それから、土砂災害特別警戒区域の調査をして保全対象が増えないよう開発を規制している。併せて、保全対象が多いところや国道や鉄道など重要施設があるところのハード整備を行って、ハードとソフトの両面で土砂災害に対する対策を進めている。</p>
<p>( 委 員 )</p>	<p>逃げてもらうということは、家屋移転してもらうということか。</p>
<p>(防災砂防課)</p>	<p>家屋移転ではなく、命を守るために避難してもらうということである。</p>
<p>( 委 員 )</p>	<p>家屋移転してもらった方が効率のいい箇所もある。人口が減り、空き家が増えている中で、家屋移転により危険箇所自体を減らしていくなど、総合的な計画がないと無駄が多くて意味がない気がする。</p>
<p>(防災砂防課)</p>	<p>よく指摘される内容であるが、現在住んでいるところから強制的に移転してもらうことは、コミュニティーの維持などの問題もあり、今の事業ではできない中で、まずは避難してもらうということから取りかかっている。</p>



<p>( 委 員 )</p>	<p>いずれは、政治の世界で決断してもらわないといけない話になっていると思う。</p>
<p>( 委 員 )</p>	<p>再評価の時に、住民の同意が得られなかったので事業期間を延長することがよくあると思うが、地元調整に要する期間について、当初計画において標準的な日数があるのか、それとも住民の人数などから同意が得られる日数を予想しているのか。</p>
<p>( 事 務 局 )</p>	<p>事前評価において、地元の同意は得ているが、総論的なところで賛同してもらっても、各論に入っていくと、個人個人で事情が異なるため、その都度説明していくしかなく、同意が得られる標準的な日数を予想するのは難しいと思う。</p>
<p>( 委 員 )</p>	<p>これはすごく難しい問題で、努力してもらわないと思う。</p>

## 7 閉会